

植調協会だより

◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・平成12年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験

成績検討会

日時：平成13年1月24日(水)，10：00～17：00

場所：池之端文化センター

〒110-0008 東京都台東区池之端1-3

TEL 03-3822-0151 (代)

- ・平成12年度非農耕地関係除草剤・生育調節剤試験

成績検討会

日時：平成13年1月31日(水)，10：00～17：00

場所：植調会館

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6

TEL 03-3832-4188 (代)

- ・平成12年度リング関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：平成13年2月5日(月)，10：30～17：00

場所：南部会館 サザンパレス

〒020-0822 岩手県盛岡市茶畑1-20-23

TEL 019-653-5222 (代)

編集後記

半世紀前の話。昭和20年代戦後の混乱の時代、日本は極度の食糧不足だった。その頃の子供はご飯をこぼしたら、それがどんなに汚れても一粒一粒拾って食べさせられ、米の大切さを教えられたものだった。時代は移り、現在は飽食の時代といわれ、ご飯は勿論、パン、肉や魚、野菜とあらゆる食物が何んの抵抗もなく残され、捨てられ、果てはカラス公害をもたらししている。米一粒の大切などという観念はひとかけらもない時代である。最近見たNHKの或る老夫婦の米作りの記録の中で、苺取られた稲田で老夫婦が落穂をせせと拾い集めていた。その姿に思わず目が熱くなった。半世紀前ならいざ知らず、現在もお落穂を集める姿。そこには一年中の汗の結晶がつまっている一粒一粒の米を無駄にしないという老農の根生が輝いていた。一粒の米の貴さをあらためて知らされた。と同時に老夫婦が落穂を拾う隣の田は減反で草で埋まっていた。これが現代の米作りかとやりきれない気持ちになった。21世紀は世界的に食糧不足になるといわれている。一粒の米の大切さを考える時代がきたような気がする。

(ひ)

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

平成12年12月発行
植調第34巻第9号

定価420円(送料270円)
(本体400円、消費税20円)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 (有)